

2017年6月2日(金)

未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第96号

目指す力の変更

ある時、生徒の右そでのボタンが留まっていなかったことが気になりました。左そでのボタンはきちんと留められているのに、です。「右のボタン外れているから、留めてごらん。」

「はい。………できませんでした。先生、お願いします。」

「慌てなくていいから、もう一回だけやってみてごらん。それでも難しかったら手伝いますから。」

「はい。………あ、できました。」

1年生を見ていると、こういうことがよくあります。左のツメは切られているのに、右のツメは伸びたまま、とか。右効きの生徒が左手で細かい作業をする、これはわれわれが思うより難しいことかもしれません。整えようとする気持ちはあるのですが、その力（スキル）が追いついていないのが残念です。

ただ、練習すれば必ず上手になっていきます。3年生で見かけないのはスキルアップできているからなのでしょう。

大阪教育大学名誉教授で、大阪医科大学LDセンター顧問でもある竹田契一先生に

「就労生活支援を見通した在学中の指導・支援」

のタイトルで本校において講演をして頂いたことがあります。下はその資料の一部です。

思春期はソーシャルスキルから

1. 小学校はまずアカデミックスキルを徹底
2. 幼小中学校はコミュニケーションスキルを家庭で行う
3. 中学校以降の中心はソーシャルスキルの確立
(友達関係、社会のルールなど)
4. 周りに合わせる力、周りの気持ちの読み取りなど
5. 高校生では就労を視野にライフスキルの導入も

ここで、4つのスキルを少し解説します。

アカデミックスキル……ここでは読み書き計算など基礎学力

コミュニケーションスキル……会話を中心とした気持ちのやりとりをする力

ソーシャルスキル……日常生活や人間関係の中で適切な言動をとる実践的な力

ライフスキル……生活（料理、お金、衛生等）、余暇、異性との付き合い方など、自立をかなえる力

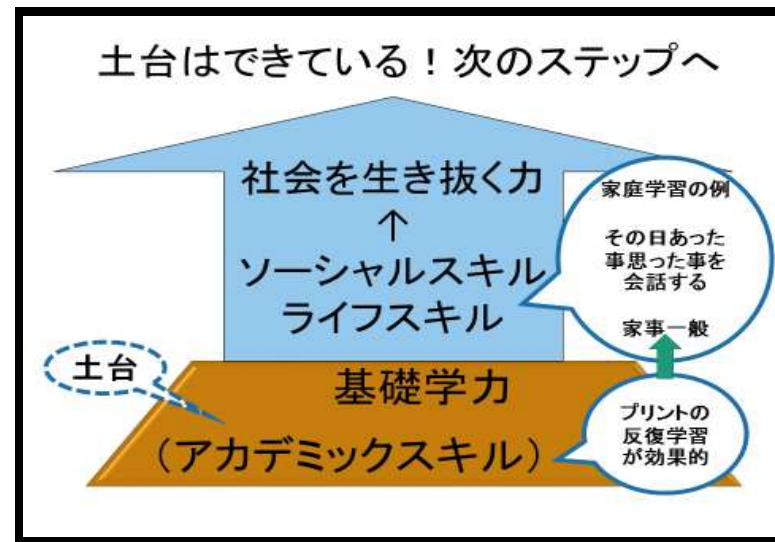
ボタンなど“身だしなみを整える力”は、上でいえばライフスキルに当たります。ボタンが留められなくて「先生、お願いします。」と上手に言えるのは、ソーシャルスキルに当たります。どちらも社会で生きて行くには必要な力です。

学校で勉強する内容という、イメージ的にはアカデミックスキルを真っ先にイメージしやすいでしょう。本校の生徒達はみんな、小中学校時代に理解力の土台となる基礎学力（アカデミックスキル）を充分築いてきた様子が見えます。しかしこれ以上、土台だけを作り続ける訳にはいきません。

ここで“目指す力（スキル）の変更”があります。

“変更”が苦手な生徒も多いことと思います。今まで真面目にプリント学習等で基礎学力をつけようと努力してきた生徒達にとってこの“変更”は簡単ではありません。

だからこそ、まず保護者の方々にご理解頂き、“変更”がスムーズにできるようご支援をお願いしたいと思います。



ソーシャルスキル

ソーシャルスキルは、社会技能や社会的スキルなどと呼ばれる事や、対人スキルと同じ意味で使われる事もあり、はっきりとは決まっていません。

WHOではライフスキルの中の一部としています。

冒頭の生徒は「先生、お願いします。」と言えましたが、生徒によってはどうしてよいか分からず、できない自分にイライラしてしまい怒り出してしまいうこともあります。人間関係をうまく築けない子が社会全体に増えており、SST（ソーシャルスキルトレーニング）が必要になってきています。

下にソーシャルスキルの例（これだけではありません）を書き出してみました。

- ①基本のソーシャルスキル
あいさつをする、ルールやマナーを守る、時間や順番を守る、基本的な生活習慣・身だしなみ など
- ②対人のソーシャルスキル
会話をし、人の気持ちを考える、自分の意見を上手に伝える、説明するなど
- ③感情のソーシャルスキル
感情に気付く、コントロールする、我慢する、上手に伝える、プラス思考、ストレス解消など